

令和5年度 麻溝地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和6年1月31日（水）午後7時から午後8時31分まで
- 2 場 所 麻溝公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、加藤南区長、佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長
仙波南区副区長、榎本市民局長
- 4 出席委員等 28人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	ごみの減量化・資源化の推進について
概要	<p>麻溝地区にある一般廃棄物最終処分場は、現在のペースで埋立てを続けると令和19年には満杯になることが見込まれ、隣接地2か所が次期処分場の候補地にも選定されている。</p> <p>ごみの大幅な減量化・資源化は、全ての市民に関わる喫緊の課題であり、市を挙げた取組が求められている。また、市が別途推進している脱炭素社会の実現に向けた取組としても、最優先で検討すべき課題である。</p> <p>こうした点を踏まえ、市及び麻溝地区で現在実施している取組について、情報共有するとともに、更なるごみの減量化・資源化を推進していくため、市と地域がどのように連携・協働できるか懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>【ごみ問題に係る部会及び最終処分場に係る部会について】</p> <p>地区において、ごみ・資源集積場所が荒れていることやごみ・資源集積場所のルールを守らない方が多いことから、話し合いを始めた。特に多くの方が使うごみ・資源集積場所については、景観も損なわれるし、衛生上も良くない状況であるため、ごみについて整理しようと地区自治会連合会の中に専門部会を設置した。</p> <p>また、最終処分場に関する部会については、最終処分場がどのような施設か分からない方や、現在の最終処分場が地区内にあるということ認識していない方も多いため、まちづくり会議の中に専門部会を立ち上げた。</p> <p>ごみ・資源集積場所をきれいにすることは、町の中がきれいになり、防犯や安全・安心のために良いと思う。犯罪率が減少するという話もあるので、ごみ・資源集積場所のルールを守るということを推進していきたい。自治会連合会では自分たちで何とかしようと思っているが、自治会の加入率が50%を切っているのが現状であり、ごみ・資源集積場所は自治会に入っていない方も利用しているので、そういった方にも届くようにルールを伝えなければならない。その点について専門部会で検討しており、中には外国人など、言語の問題もある。自治会員であれば回覧板で知らせることができるが、自治会員でない人に届くようにするには、ルールを記載したチラシを全戸配布することを進めており、その経費は自治会連合会で持つつもりである。他にもポスター掲示などによるルールの周知も考えている。部会については令和3年度から11回を開催しており、住民全体にルールを伝えようと考えている。</p> <p>また、ごみについては資源となり得るものもある。紙については、このエリア</p>

では金曜日に回収されるが、雑紙をしっかりと分ければまだ資源になる。一般ごみに捨てていた紙が減り、ごみの減量化と資源化が実現される。今までは行政や企業に任せていた部分もあるが、ごみを捨てる側ができることとして、雑紙の分別などもチラシに掲載することを話し合っており、地域活性化事業交付金を活用してチラシを作成したいとも考えている。

最終処分場に関する部会は6月から5回行っており、ごみの最終処分場という言い方が、響きが良くなく私たち住民には引かかる。

元々、最終処分場という看板があったが、何かということは理解していなかった。そんな中で現在の最終処分場が令和19年に一杯になってしまうという話が行政からあり、新たに作る候補地が現在の場所の両側になるという話があった。訳も分からないで反対するわけにもいかないので、見学会や行政からの説明で疑問点を解消していった。一般の方たちにも伝えようと思い、ジュニアリーダーの若い方にチラシを作ってもらった。また、SC相模原で試合の時にブースなどで広報活動を行っていただいた。ジュニアリーダーが作ってくれたチラシにはアンケートもあり、結果を机上に配布した。

【あさみぞふれあい夢広場について】

全国的にこどもの貧困対策としてこどもの居場所づくりやこども食堂の取組が広まっていった。麻溝地区でも有志の6～7名があさみぞふれあい夢広場という名称でこどもの居場所づくりを始めた。毎月第3金曜日の17時から開催しており、当時は平成30年6月ごろから検討を始めた。内容としては、食事や見送りや見守りなど、かなり手厚いものとなっている。また、勉強する場ともなっており、有意義な場を提供していると感じている。

但し、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が停滞し、コロナ収束後に活動を再開する際に、アンケートを行ったところ、スタッフが全然集まらない状況となってしまった。また、公民館の利用に際して、部屋で食事はできないというルールとなり、活動ができなくなってしまった。そんな中、違う形で活動できないかを検討し、食材の提供に切り替えて、名称や時間等は従前と同じで実施した。それから今日まで14回開催し、来場者数については700名となった。現在スタッフは17名となっており、食材調達、食材配置、受付、配布などを行っている。食材の提供者は国、県、団体、企業、個人などがある。農林水産省からは米を提供していただいております、好評を得ている。今後、安定した食材供給のため、食材の提供については是非ご協力をお願いしたい。

【あさみぞみんなのコミュニティについて】

ごみの減量という点で、ごみの前の資源の段階で食品ロスを減らしたいと考えている。食品ロスが減ればごみの減量につながる。現在物価が高騰しており、食品を多く買わないなどの対応を行っているが、お中元やお歳暮など、予測しないものが手元に届き使い切れないケースも多い。また、近年は異常気象で規格外の野菜がたくさん採れてしまい、今までは畑の肥やしになってしまっていたが、受け取りに行っている。SC相模原でもフードドライブを行っていただき、それを受け取りに行ったりしている。また、市と協働事業で子育て家庭を中心に食材を支援した。3年間、協働事業提案制度を活用して、市と協働で事業を行ったが、来年度からは独自で行うこととなっている。

	<p>集めた食材はあさみぞみんなのコミュニティでコロナ禍でも食材配布を行っており、最近では自治会の協力をいただき、いきいき体操などと絡めて地域のコミュニティとして行っている。</p> <p>【相模原支援学校のごみ・資源集積場所マナー改善の取組について】</p> <p>原当麻自治会に協力いただきながら、地域のごみ・資源集積場所のマナー改善ということでポスターを作成した。最初に事前学習ということで、児童生徒は色々な教材を使って学習し、原当麻自治会の方とインタビュー形式の動画を作成し、それを見て学習することやクイズ形式でマナーについても学習した。</p> <p>今年度は麻溝台環境事業所にも協力いただき、実際に清掃車の作業を体験したり、乗車させてもらった。</p> <p>ポスター作りやラミネート加工については、社会福祉協議会の補助金で、色鉛筆やクレヨンを購入し、それで描いている。なかなか、枠の中に色を塗るのが難しい児童生徒もいるが、先日原当麻駅近辺のごみ・資源集積場所に第1号として設置した。麻溝地域にある学校として、このような活動を盛り上げていきたいと考えている。</p>
<p>市の取組状況等</p>	<p>皆様の協力により、ここ10年は一般ごみの量が減っており、今年度においても着実に減っている状況であり、家庭から排出された一般ごみの約3割は、資源化が可能な紙やプラスチック製容器包装であるが、一般ごみとして燃やしているのが現状である。近年、資源の売払い単価は高騰しており、令和4年度の売払い金額は9億円を超え、廃棄物行政の経費の一部として活用している。</p> <p>ごみに関することは毎日の生活に密接な関わりがあり、ごみ・資源集積場所に関する事、ごみの有料化や戸別収集、北清掃工場の建替や次期最終処分場の選定、また高齢化等に伴う一般ごみの収集への支援など課題も多い。</p> <p>次期一般廃棄物最終処分場については、令和3年度に基本構想を策定し、「候補地選定審議会」による審議を経て、令和4年3月に候補地として緑区根小屋の2箇所、南区麻溝台の2箇所が答申された。答申された内容については、候補地がある麻溝地区の周辺や、緑区津久井地区において、44回にわたりそれぞれのまちづくり会議や地区自治会連合会の会議の場でご説明させていただくとともに、市民説明会を実施し、ご質問やご意見を伺ってきた。併せて、施設の役割や必要性を認知いただくことを目的に、皆様にも毎月19日に出席いただいた施設見学会を22回実施し、八王子市や町田市は最終処分場跡地を公園としていることから、関係自治会の方々と視察を行った。</p> <p>また、候補地の選定を進めるため、候補地の現地踏査や技術的な検討も行いながら、候補地毎の情報収集や課題の整理に取り組んでいる。最終処分場の役割や大切さをより多くの人に広く伝えることや、ごみの減量化・資源化を進めることは大変重要であることから、市広報紙や市ホームページなどで最終処分場の愛称を募集し、1月15日の締め切りまでに250件を超える応募があった。廃棄物減量等推進審議会に報告して3月までには愛称を決めたいと思っている。引き続き、皆様方とのこうした対話を通じて、ご意見や考え方を伺うとともに、自然環境やまちづくりへの影響、安全上の問題、整備費用など様々な面から検討し、最終候補地の選定を進めてまいりたい。</p> <p>続いて、家庭系ごみの減量化・資源化推進のために行っている主な取組につい</p>

	<p>て、情報発信としては、市ホームページや広報さがみはらに、ごみ・資源の排出方法等を掲載している。また、相模原市ごみ分別アプリの運用及びX等のSNSの活用による周知などを図っている。</p> <p>啓発事業及び環境教育として、自治会、公民館等における相談会やまちかど講座の実施、さがみはら4Rフェアの開催や各種イベント等への出展や啓発活動などを実施している。</p> <p>生ごみ・食品ロスの削減については、生ごみ4Rアドバイザー派遣制度による生ごみ4Rに関する講習会等の実施や生ごみ処理容器購入者への購入費用の助成、フードドライブ事業として、公共施設6か所において余剰食品の受入れを実施した。また、庁内において、市職員向けのフードドライブも実施している。</p> <p>リユースの促進としてリサイクルスクエアにおけるリユース家具の展示・譲渡事業、リユースに関する連携協定を締結している事業者との連携を行っており、引き続き、現状の取組の継続、見直しを図りながら取組を加速化していきたい。</p> <p>ごみについては、生活するために必ず発生するものであり、ごみ質測定調査では、家庭から排出された一般ごみの26.9%の約3.1万トン、資源化が可能な紙やプラスチック製容器包装であることが明らかになっており、雑紙の話もあったが、ごみの減量化・資源化のため、ごみの発生・排出抑制に重点を置いた4Rの取組を進めていく。</p> <p>一般廃棄物最終処分場は、令和19年度には一杯となる見込みであるが、市としては最終処分場を延命化して、少しでも長く使っていきたい。最終処分場や他自治体で最終処分場の後の公園となった場所など、視察の要望があれば言っていただきたい。</p> <p>ごみ問題に関する課題について、引き続き取り組んでいくので、地域から忌憚のないご意見をいただきたい。 (奈良副市長)</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>麻溝地区自治会連合会のHPにごみの流れが分かるような資料やごみを減らすための取組を掲載している。提案であるが、処分場の跡地について、麻溝地区は公園がたくさんあるので公園を増やすのではなく、水耕栽培で作物を作るような農地を作るなど、地上の部分をうまく使い、夢が持てるような、使い方を検討していただきたい。色々な団体と連携して市民と行政の協働が必要である。</p>
地区の発言	<p>プラスチックの資源化は包装容器であると思うが、それ以外の製品プラスチックと混同してしまっていた。一般市民には分かりづらいと感じている。製品プラスチックを資源化するようなことは考えているのか。</p> <p>また、最終処分場の最終的な結論はいつになるのか。</p>
市の発言	<p>跡地の活用については、関心が高い部分であると思っている。広大な土地なので有効に活用していきたい。廃棄物セクションだけではなく、全庁的な検討が必要であると思っており、そのためには地域の皆様と対話しながら検討していきたい。</p> <p>また、製品プラスチックについても今後資源化に取り組んでいかなければならないと考えており、検討しているところである。</p>

	<p>最終処分場については、4か所候補地があるが、それぞれ課題もあるため、慎重な検討が必要と思っている。この場で明言することは難しいが、順を追って説明してまいりたい。 (佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
市の発言	<p>4か所の候補地の中で、令和6年度に少し絞っていき、令和7年度中には最終候補地を決めたいと思っている。但し、まだ議会等に諮っているわけではないので、市としてそのように考えているということである。 (奈良副市長)</p>
地区の発言	<p>環境事業所の方とも良好な関係を築いているが、作業員の方が小学校4年生にごみに関する授業を行っていると聞いた。そのような授業を小中高校などで計3回くらい行うことで、より浸透すると思う。</p>
市の発言	<p>麻溝台環境事業所の職員が学校を回って啓発活動をしている。なかなか、中学校や高校でというのは難しい部分はあるが、こどものうちに学んでいただくことは重要であると考えており、どこまで実現できるかは分からないが、検討していきたいと思う。 (佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
市の発言	<p>麻溝台環境事業所が授業を行っており、学校で説明すると、こどもたちから手紙をいただいて、それを事務所に置いてある。職員もそれを励みにして、どうすればこどもたちにわかりやすいかなどを常に考えている。 (奈良副市長)</p>
地区の発言	<p>職員だけでやると日頃の職務もあると思うので、学生の間に1回くらいしか授業ができないと思うので、何とかならないかと思う。それだけの熱意があるのに、もったいないと思う。</p>
地区の発言	<p>行政だけに頼るのではなくて、例えば地区の専門部会の者が、改めて勉強して、授業を行っても良いのではないか。</p>
市の発言	<p>市としても、4年生の暮らしのごみという授業や、保育園や幼稚園で出前講座を行っているが、行政だけでは足りない部分もある。地域の皆様にご協力いただけるのであれば、その活動を支援したいと思う。 (佐々木脱炭素社会・資源循環推進担当部長)</p>
地域の発言	<p>麻溝地区は市内の6割のごみを焼却している南清掃工場があり、最終的には麻溝地区の処分場に埋めている。現在でも負担感はあるが、次期の最終処分場の候補地にもなっていることには疑問を感じる。もう少し公平にそのような施設を配置するべきであるという意見は多くいただいている。</p> <p>市内には最終処分場に適した場所はなかったということであるが、候補地となっている場所は、先人が農地や首都圏近郊緑地保全区域として残してくれている場所である。</p> <p>どうしてもそこに作るということであれば、全市的にごみの減量化に最大限取り組んでいただかないといけないと思っている。そうした取組がなければ、最終処分場を建設させてくれと言われても、検討さえどうかと感じてしまう。ごみの減量化を進め、埋める量を減らし、最終的には最終処分場を建設しなくてよくなるような取組を行っていただきたい。残念ながら、ごみを集積場に出しさえすれば、市が無料で処理してくれると考えている方が多くいる。</p> <p>市は4Rの周知啓発に取り組んでいきたいという話があったが、それだけでは家庭ごみの減量化や資源化を進めることは難しいと思う。</p> <p>レジ袋の有料化があったが、その時にマイバッグの利用が一気に進んだ。そういう例もあるので、ごみについてもそのようなことも考えて良いのではないか。</p>

	<p>市民の意識を変えて、行動に移してもらえるような施策を行っていかないとごみは減らないと思う。今そのことをやるべき時期なのではないかと思うので、是非考えていただきたい。麻溝にはごみの減量化や資源化については真面目に考えている方が大勢いる。そのことを重く受け止めていただき、ごみの大幅な減量化、資源化に取り組んでいただきたい。</p>
--	---

<p>市長の感想等</p>	<p>昨年度もごみの関係で懇談させていただいた。また、その後他の地区でも類似したテーマの懇談もあり、ごみの減量化や資源化が大切であることや、地域の方に負担を強いていることについて勉強させていただいた。</p> <p>最近が高齢化が進んでおり、ごみ出しが困難となっている方が増えている話もいただいている。これについて、来年度から対応ができないかということで取組を進めている。</p> <p>行政だけでは課題の解決も難しいことから、市民参加型で取り組まなければ、ワクワクするまちづくりは難しいと感じている。例えば、本日話のあった専門部会などにも、参加して欲しいなどの話があれば参加させていただきたい。以前は中学校のPTAの皆様朝の声掛け運動に参加して欲しいとお声掛けいただき、お邪魔した。お話しいただければ現場に伺い一緒に勉強したいと考えている。</p> <p>会長がお話しされた、ごみの減量化、資源化については喫緊の課題であり、最終処分場の4つの候補地についての議論を進めている。どの候補地が有力であるかを見定める段階にきている。そのような段階であるので、皆様にご理解いただく部分やお叱りを受ける部分もあるかもしれないが、ごみの減量化、資源化に取り組まなければならないということを痛感した。また、全国的な取組も勉強し、加速化していかなければならないと考えている。</p> <p>本日話題となったジュニアリーダーのチラシについて、職員にもこういうチラシを作らないといけないと話をしている。素晴らしいチラシであると思う。また、雑紙の話なども大変参考になった。</p> <p>あさみぞふれあい夢広場については、一度現場に伺いたい。また、あさみぞみんなのコミュニティについては、取組について感謝している。相模原支援学校の皆様の取組については、実際にポスターを掲示した場所を見に行きたいと思う。こうやって皆が自分らしく生きていける社会を応援していきたいと思っている。</p> <p>また、最終処分場の候補地については、最終的な判断は私が責任をもって決めていくつもりであるし、最終処分場の跡地利用の話については、現在ノジマのメガソーラーを設置している跡地は概ね10年後に公園となる予定である。</p> <p>製品プラスチックについては、先ほど話のあった学校の授業などで学んでいけたらよいと思う。</p> <p>これまで5年間はSDGsに一番取り組んできた。これからはごみや下水道の課題解決を進めていきたいと考えている。そんな中で学校でのごみに関する授業について、地域の皆様が学校に行き授業を行ってはどうかという心強い話をいただき大変励みになった。令和6年度からとはならないかもしれないが、教育長と議論をはじめたいと思う。</p> <p>最後に、レジ袋の話については、大変分かりやすい事例であると感じた。確かにレジ袋の有料化でマイバッグが一気に普及したと感じている。市としてもその</p>
---------------	--

ような取組等について検討していきたいと思う。

本日はたくさん勉強させていただいた。これからも皆様と顔の見える関係で議論していきたいと思う。

(本村市長)